

## 事業者向け 放課後等デイサービス自己評価表

		チェック項目	はい	どちらとも いいない	いいえ	改善目標、工夫している点など
環境・ 体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	○			
	②	職員の配置数は適切であるか	○			子どもの人数に合わせた職員を配置している。
	③	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされているか	○			室内全室バリアフリーとなっている。
業務改善	④	業務改善を進めるための PDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか	○			日々、療育終了後振り返りを行い、改善点・工夫点などについて話し合い、次回の療育に活かしている。
	⑤	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	○			意見箱の設置。要望などがあつたときは療育内容に取り入れている。
	⑥	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	○			HPに記載
	⑦	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか	○			
	⑧	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	○			夏季研修、外部研修会に参加し、研修報告会、勉強会を定期的に設けている。
	⑨	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか	○			半年ごとにアセスメントを行う。必要に応じて、その都度、面談を行う。
適切な 支援の 提供	⑩	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	○			
	⑪	活動プログラムの立案をチームで行っているか	○			毎月、毎週子どもに合わせた指導案を話し合い、計画を練っている。
	⑫	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	○			研修や勉強会に参加し学んだことを取り入れている。
	⑬	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援しているか	○			平日、長期休暇ともに1時間療育であり、その中で細やかな課題を設定し行っている。
	⑭	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成しているか	○			子どものニーズや状況に合わせて作成。
	⑮	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	○			支援前には、利用時の特性・配慮すべき点等の確認をおこなっている。
	⑯	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	○			フィードバックを行い、子どもの様子や職員の対応の仕方など次の療育につなげるようにしている。
	⑰	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	○			記録をとり、見返す事で療育内容の改善や子どもの対応の仕方につなげていく。

	⑱	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断しているか	○			半年に一度、保護者と一緒に見直す機会を設けている。
	⑲	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせさせて支援を行っているか	○			
関係機関や保護者との連携	⑳	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	○			管理者、児童発達管理責任者が会議に出席している。
	㉑	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか	○			地域の小学校、中学校と必要に応じて学校連携を行い、トラブルに関しても電話や面談にて相談に応じ、柔軟に対応するように努めている。
	㉒	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えているか		○		現在は対象児童の受け入れがない。
	㉓	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか	○			
	㉔	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか		○		対象者なし（小学六年生までの児童を対象としているため。）
	㉕	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	○			
	㉖	放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか			○	
	㉗	（地域自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか			○	
	㉘	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	○			
	㉙	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っているか	○			希望者を募り、小児科が行っているペアレントトレーニングへの参加を勧めている。
保護者への説明責任等	⑳	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	○			
	㉑	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	○			その都度、相談に応じ、必要があれば専門職のスタッフによる助言、支援を行っている。
	㉒	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	○			不定期ではあるが、保護者同士が意見交換をしたり、先輩の保護者の話を聞く機会を設けている。

	③③	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	○			
	③④	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか		○		定期的ではないが、活動概要や行事予定などは掲示板にして保護者に伝え 意思統一を図っている。
	③⑤	個人情報に十分注意しているか	○			
	③⑥	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	○			
	③⑦	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか			○	保護者の中には、通所していることを知られたくない（個人情報）と思われる方もいる。
非常時等の対応	③⑧	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知しているか	○			
	③⑨	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	○			子供たちに対して、療育の中で視覚支援などを用いて行っている。
	④①	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	○			
	④②	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか	○			現在、身体拘束が必要となる場面はないが、事故や怪我の回避のためにどうしても必要な場面には保護者に十分な説明を行い安全確保の対応を行う。平素より職員間で代替案を話し合い、子どもを身体拘束することなく、安全に有意義な活動ができるよう取り組んでいる。
	④③	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	○			指示書の提出はないが、保護者と密に連絡を取り合っている。保護者よりアレルギーの有無を確認し記録したうえで、職員間で情報の共有を行っている。
	④④	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	○			ヒヤリとする様な出来事は、その都度職員間で話し合い、対策を考えている。